



第3回全国家庭教育支援研究協議会 分科会Ⅳ 実践事例発表
石巻市家庭教育支援チームの活動状況

石巻市家庭教育支援チーム

- × ○ 設立 平成23年9月
- × ▪ メンバー 30名(全員がボランティア)
- × 子育てサポーターリーダー 4名
- × 子育てサポーター 19名
- × 子育てサポーター受講中 7名
- × ▪ メンバーの約半数が震災後、活動困難
- × ○ 仮設団地集会所での「子育てサロン」
6回(1月末現在)
- × ○ 研修会3回(長崎県家庭教育支援チームと2度)

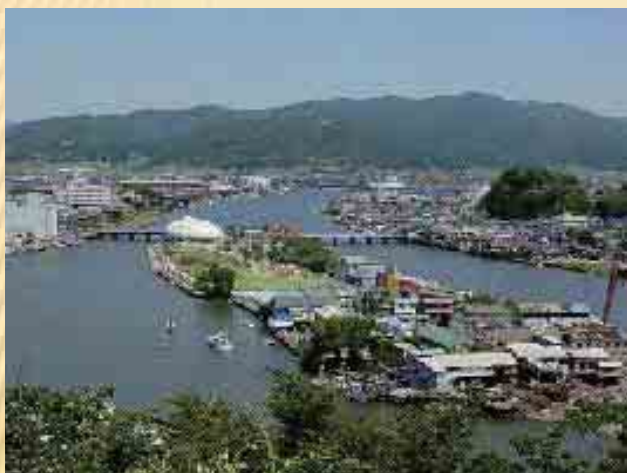
石巻市家庭教育支援チームの活動状況

- 1 石巻市家庭教育支援チーム設立の経緯
- 2 仮設団地集会所での実践例
- 3 仮設住宅に住む親子の思い
 - ・ サポーターとのかかわりの中から
- 4 今後の方向性
 - ・ 中期目標と長期目標



石巻市の被害状況 東日本大震災

震災前の中州



震災後の中州



東日本大震災

平成23年3月11日(金)午後2時46分

東日本大震災影響

震源地 石巻市牡鹿半島東南東130km

震源までの深さ 24km

震度6弱、マグニチュード9.0

死者2,960名、行方不明者706名

(平成23年9月末現在)

石巻市全住家の約7割が被災、

うち約4割が全壊または流失(22,357棟)

(平成23年10月22日現在)

東日本大震災被害

都市機能の消失

石巻市全域でライフライン停止

工場・事業所・学校・病院・総合支所等の公共施設が壊滅的な被害

最大避難者数 約5万人、避難箇所250箇所

広範囲にわたる地盤沈下・液状化



余震

石巻市家庭教育支援チーム設立までの経緯

2011.

- 3. 1 1 東日本大震災(石巻中央公民館は12月中旬まで避難所)
子育てサポーターの被災状況確認
- 6. 2 7 石巻市子育てサポーター等研修会
- 7. 2 1 河南子育て支援センター「パプラ」活動状況視察
- 7. 2 2 北上町保健センターで子育てサポーターの活動状況視察
- 8. 2 5 石巻市子育てサポーター等連絡会議
- 9. 2 7 第1回子育てサロン(仮設飯野川校団地集会所)

6月27日 子育てサポーター・サポーターリーダー等研修会

- × 出席者 7名 講師：県生涯学習課 高橋先生
- × 1 避難所や仮設住宅での生活
- × 
- × 親のストレスが子どもに向くのが心配
- × 
- × 避難所や仮設住宅に住む親子を支援
- × 【仮設住宅に焦点化 ←避難所は状況把握困難】
- × 2 団体相互の横の連携強化・人の輪の拡大
- × 3 行政の役割

8月25日 子育てサポーターリーダー等連絡会議

- × 出席者 4名
- × 1 第1回子育てサロンの具体計画
- × 2 広報活動の検討
- × ・ 関係諸機関との連携がない弱み
- × ・ 市報、新聞の活用
- × 3 チーム全員への連絡
- × ⇒ 後で大きな意味を持つことに

仮設団地



団地数 131 団地
戸数 7,297戸
児童生徒数 約2000人



仮設団地集会所



仮設住宅集会所での活動の様子

明るく、元気に、親身になって

仮設団地集会所での活動の様子 1

平成23年9月27日(火)
仮設飯野川校団地集会所



参加者 7名(親子3組)

仮設住宅集会所での活動の様子 2

平成23年10月19日(水)
仮設開成第11団地南集会所



参加者15名(親子6組)

仮設住宅集会所での活動の様子 3

平成23年11月28日(月)
仮設開成第11団地北集会所

長崎県家庭教育支援チーム
と合同開催



参加者14名(親子6組)

仮設住宅集会所での活動の様子 4

平成23年11月28日(月)
仮設開成第11団地北集会所

支援者の協力(第1回目から)



長崎県家庭教育支援チーム
によるパネルシアター



ベビーマッサージの研修

仮設住宅集会所での活動の様子 5

平成23年12月7日(水)
仮設開成第11団地南集会所

全国からの応援物資



震災後、活動できなくなった
子育てサークルからの要請



参加者22名(親子9組)

研修 長崎県家庭教育支援チームに学ぶ

× 平成23年11月29日

× NP講座体験版



参加した母親の感想から

- × 楽しい
- × 知り合いができる
- × 気分転換になる
- × サポーターは心強い味方
- × 安心感・充実感
- × 同じ場所で定期的な開催を希望
- × 「また来てください」



参加した母親の様子

～明るく元気、でも・・・～

- × 生活への不安
- × ・ 経済的な不安
- × ・ 将来への不安
- × ・ 震災の心理的影響
- × 子育てへの不安
- × ・ 震災を引きずる子どもたちの行動
- × ・ 気持ちに余裕がない
- × ・ 子どもを遊ばせる場所がない
- × ・ 自分だけの時間がほしい

参加した母親の様子

～明るく元気、でも・・・～

- × 「あまり困っていることはありません」
- × 「震災の時より、気持ちは落ち着いてきました」
- ×
- × ・ ・ ・ 我慢・遠慮はしていないか
- ×

これまでの実践を振り返って

- × ○家庭教育支援チーム一人一人の熱意と
- × コーディネータカに支えられ・・・

- × ○むしろ、震災後のこの時期だからこそ・・・



- × 活動が定着し、広がった
- ×

これから先を見すえて

- × 1 より多くの仮設住宅に住む親子の支援
- × 2 家庭教育支援の輪を広げる
- × 3 後継者の発掘と育成



第3回全国家庭教育支援研究協議会 分科会Ⅳ 実践事例発表
石巻市家庭教育支援チームの活動状況

リフレッシュ・キャンプ

子どもらしい日々を再生する試み

(独)国立青少年教育振興機構 指導主幹 北見 靖直

The screenshot shows the Yahoo! Japan homepage. At the top, there's the 'YAHOO! JAPAN' logo and navigation links. A search bar is present. Below the search bar, there are several news snippets. One snippet, titled 'リフレッシュしよう' (Let's Refresh), is circled in red. It includes a photo of a group of people and the text '7月21日19時54分配信 毎日新聞'. To the right of this snippet is an advertisement for an electric bicycle. Below the news snippets, there's a section for '東日本大震災に関する情報' (Information about the Great East Japan Earthquake) with links to disaster relief and recovery information. At the bottom, there's a weather forecast for tomorrow (July 22, 2011) showing a high of 26°C and a low of 17°C. The page also features a sidebar with various services like shopping, news, and entertainment.

実施期間 平成23年7月21日～8月31日

総参加者数
3,823名

国立磐梯青少年交流の家

実施期間	合計 1,131名
B-1 第1回	平成23年7月23日(土)～7月26日(火)
B-2 第2回	平成23年7月26日(火)～7月29日(金)
B-3 第3回	平成23年8月1日(月)～8月4日(木)
B-4 第4回	平成23年8月14日(日)～8月17日(水)
B-5 第5回	平成23年8月17日(水)～8月20日(土)
B-6 第6回	平成23年8月23日(火)～8月26日(金)
B-7 第7回	平成23年8月28日(日)～8月31日(水)

国立那須甲子青少年自然の家

実施期間	合計 2,692名
N-1 第1回	平成23年7月21日(木)～7月24日(日)
N-2 第2回	平成23年7月24日(日)～7月27日(水)
N-3 第3回	平成23年7月27日(水)～7月30日(土)
N-4 第4回	平成23年7月30日(土)～8月2日(火)
N-5 第5回	平成23年8月2日(火)～8月5日(金)
N-6 第6回	平成23年8月6日(土)～8月9日(火)
N-7 第7回	平成23年8月11日(木)～8月14日(日)
N-8 第8回	平成23年8月16日(火)～8月19日(金)
N-9 第9回	平成23年8月21日(日)～8月24日(水)
N-10 第10回	平成23年8月24日(水)～8月27日(土)
N-11 第11回	平成23年8月27日(土)～8月30日(火)



リフレッシュ・キャンプ？

福島県全域

・小学生1年生～中学3年生が対象

応募、問い合わせ

・20,000人以上

企画スタート

・6月中旬

受付センター

・7月4日

基本プログラム

	午前	午後	夜
1日目		仲間作りレクリエーション	ボランティアと遊ぼう！
2日目	トップアスリートと遊ぼう	ハイキング	自主活動
3日目	うどん打ち	屋内プールでの水泳・水遊び	屋内キャンプファイヤー
4日目	創作活動		

キャンプで私たちが大切にしたこと

- 1 子どもたちを日常へ！
- 2 子どもたちの成長の場として
- 3 3泊という宿泊期間

• 子どもたちのこと



ボランティアのこと



忘れられない一言

「ぐっちゃんは九州からきたんだよね
福島の子は放射能ついているから
はじめはさけられると思った
でもさけられなかったので
うれしかった！」

これから大切なこと

「時代をともに生きること」

喜多方市家庭教育支援チーム“もも”

福島県喜多方市

取組紹介：22年度事業の振り返り

『自由な心と子育ての責任』～子育て中の自分と向き合うワークショップのタイトルのもとに、2回シリーズの講座を行いました。

「子どもは育てたように育つ」のような、保護者に強い責任感を求める内容の子育て情報も多く、「こうでなければならない」「こうあるべき」という考え方ががんじがらめになり、「こんなはずではない」と悩む保護者がいらっしやいます。その反面、情報には全く耳をかさず、「子育てには興味がない」「自分の時間がとれない」といらする方も。

このようなどちらのタイプであっても保護者の方には自分の気持ちに正直に向き合っていたでき、どうしたらいいのかを一緒に考えてみよう、幼稚園、小学校を中心に講座への参加を呼びかけました。

1月25日と3月8日の寒い時期での開催でしたが、それぞれ15名程度の参加者がありました。

受講後のアンケートには、「子育てはちゃんと食べさせて、あったかい布団で寝て、楽しい家があればいいのかと思ってきました。」「双子の子育て中。息がつまることの多い毎日ですが、気持ちの整理ができました。また、顔を出したいと思えます。」等の言葉が寄せられ、6名の方は連絡先も書いてありました。家庭教育支援チーム“もも”への期待が感じられました。

また、別の日程で子育て相談日を設けたところ、2名の方から相談がありました。お帰りの際に「人に話すとこんなに気持ちが楽になることが分かりました。」とおっしゃった相談者の言葉が印象的でした。

必要なことや思いなど：スローに地道に自然体で

私たちは“話を聴く”ことができる方ならどなたでも“もも”に参加していただき、活動の話を広げて行きたいと考えています。

例えば、行政や病院等の専門機関が川の向こうにあって、相談したいことがあっても、なかなか橋を渡れないでいる保護者に、「そうか、それはつらいよね。」と身近で話を聴けるたくさんの存在が必要だと思えます。相談内容によっては専門機関に通じる橋を保護者が渡りやすいように背中を押してあげられる存在であることも大切で、私たち自身の傾聴トレーニングや情報収集も欠かせないと考えています。

喜多方市においても、3月11日の地震・原発事故以来、保護者からは放射線がおよぼす健康への影響を心配する声が多くあがっています。

当市の環境放射線量は $0.11\sim 0.14\mu\text{Sv/h}$ で推移し、福島県内の他地域と比較すれば低い数値ではあっても、「健康には全く心配のない数値です。」と言われても、「そうですね。」と保護者はすぐに受け入れられるものではなく不安は続いています。原発事故の一刻も早い収束に向けての関係機関の限らない努力を切に希望すると同時に、今の状況の中で私たち“もも”は何ができるだろうかと考えました。

その結果、保護者が一時でも緊張感から解放される事業に取り組むことにしました。1回目の企画として「ふれ合って、ささえ合って『体操で体と心をほぐし合いましょう』」と題し、ひとりではなくペアや団体に体操を行い、保護者が一時“力をぬく”機会を提供することにしました。あわせて、なぜからだを動かすと心が元気になるのかを学びます。

“もも”はチーム員の会費で運営しているので、大きなことはできませんが、今後も自然体で保護者の気持ちに寄り添いながら、子育ての応援をしていきたいと考えています。

最後に要望ですが、学校や幼稚園から家庭教育支援チームに「気になる家庭があるので訪ねてください。」と連絡をいただき、その家庭を訪問して、チーム員が保護者から話を聴くことができるような連携体制を整えば、子育て支援活動の前進を図ることができると考えています。そのためにも「家庭教育支援チーム」の学校等への徹底的な周知を行政サイドでも行っていただきたいと考えています。

団体名：喜多方市家庭教育支援チーム“もも”

活動開始：平成22年4月1日

活動人数：8人

団体住所：福島県喜多方市天満前8834-4

代表 幸田久美子

Tel 0241-24-3378



平成24年1月13日

保護者各位

山 都 公 民 館 長 富田 新一郎
やまと児童クラブ保護者会会長 佐 藤 正幸

平成23年度 山都公民館 家庭教育講座

やまと児童クラブ 親子のひろば

のお知らせ

新しい年を迎え、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より公民館活動に御理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、山都公民館では児童クラブ登録児童と保護者の皆さんを対象に、今年も「親子のひろば」を開催することになりました。皆様ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

1 日 時：平成24年2月4日（土）9：30～13：30（開場9：00）

2 場 所：山都開発センター 3階ホール集合

参加料：無料

3 内 容

① ジャグリングで遊ぼう（対象：全員）

講師 森高一裕さん

「ポイ」というジャグリングの道具をつくってあそんだり、お手玉やけん玉、コマなどのコツをマスターしましょう。



② からだに優しいごはんとおやつ（対象：子ども）

講師 伊藤利恵子さん、食生活改善推進員

いつもお世話になっているおうちの方に、今日は子どもたちでランチを作りましょう。



③ 家庭教育講座（対象：保護者）

講師 家庭教育支援チーム「もも」

子どもたちがランチを作っている間、大人は「子どもの話を聴く」ことをテーマに、ワークショップで一緒に考えてみましょう。

Here we go!





平成 23 年度家庭教育講座

「チェルノブイリ福島調査団からの報告」

昨年 11 月にベラルーシ・ウクライナ調査団に参加した
熊谷氏から、写真を見ながら報告していただきます。

25 年前におきた旧ソ連邦のチェルノブイリ原発事故。
広い地域が、大量の放射性物質で汚染されました。
その中で人々はどのように行動し、今はどのような生活を営んでいるのか、
そして人々からのメッセージとは？

*日 時：平成 24 年 2 月 19 日（日）

午後 1 時～

*場 所：喜多方プラザ第二会議室

*講 師：熊谷純一氏

（福島県生活協同組合連合会会長）

*参加費：無料

*託 児：ありません

主催：喜多方市家庭教育支援チーム “もも”

後援：喜多方市教育委員会

【お問い合わせ先】 喜多方市家庭教育支援チーム “もも”
代表 幸田久美子 0241 - 24 - 3378

【事務局】喜多方市中央公民館 0241 - 24 - 4811